資料 3

令和元年度第 2 次燕市食育推進計画の進捗状況

健康づくり課

第2次燕市食育推進計画指標項目一覧

計画期間：平成29年度～令和4年度
進捗基準：◎目標値を達成　○概ね達成(80%以上)　△未達成だが基準値より改善　▼基準値未満
*がついている指標項目は次期計画策定時に調査予定

基本目標

指標項目	対象	第1次計画策定時基準値	第2次計画策定時基準値	H29年度調査時実績値	H30年度調査時実績値	R元年度調査時実績値	R4年度目標値	評価
1 健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する								
毎食、主食・主菜・副菜をそろえて食事をしている人の増加*	小中学生	—	37.9%(H27)	—	—	—	60%以上	—
	保護者	—	27.2%(H27)	—	—	—	60%以上	—
ご飯を1日2食以上食べる人の増加*	小中学生	98.3%(H22)	96.8%(H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	97.0%(H22)	93.5%(H27)	—	—	—	100%	—
野菜を毎食食べる人の増加*	小中学生	38.6%(H22)	38.6%(H27)	—	—	—	60%以上	—
	保護者	29.1%(H22)	31.2%(H27)	—	—	—	60%以上	—
朝食を毎日食べる人の増加*	小中学生	88.9%(H22)	89.6%(H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	92.7%(H22)	87.6%(H27)	—	—	—	100%	—
よく噛んで味わって食べている人の増加*	小中学生	—	79.7%(H27)	—	—	—	90%以上	—
	保護者	—	67.7%(H27)	—	—	—	80%以上	—
減塩に心がけている人の増加*	保護者	—	52.7%(H27)	—	—	—	70%以上	—
	成人	—	45.8%(H28)	—	—	—	70%以上	—
メタボリックシンドローム該当者、予備群者割合の減少		—	30.6%(H27)	30.4%(H28)	31.1%(H29)	30.8%(H30)	26.0%以下	▼
就寝前の2時間以内に夕食をとることが週3回以上ある人の減少		—	14.1%(H27)	13.4%(H28)	13.1%(H29)	14.7%(H30)	13.0%以下	▼
朝食を抜くことが週3回以上ある人の減少		—	5.4%(H27)	5.7%(H28)	5.1%(H29)	6.3%(H30)	5.2%以下	▼
2 食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む								
家族そろって食事をする人の増加*	小中学生	59.3%(H22)	74.6%(H27)	—	—	—	80%以上	—
	保護者	75.6%(H22)	77.1%(H27)	—	—	—	80%以上	—
食事がおいしい・楽しいと感じる人の増加*	小中学生	67.9%(H22)	74.2%(H27)	—	—	—	80%以上	—
	保護者	68.8%(H22)	70.2%(H27)	—	—	—	80%以上	—
「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする人の増加*【毎回・時々含む】	小中学生	92.5%(H22)	90.4%(H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	88.7%(H22)	87.3%(H27)	—	—	—	100%	—

基本目標								
指標項目	対象	第1次計画策定時値	第2次計画策定時基準値	H29年度調査時実績値	H30年度調査時実績値	R元年度調査時実績値	R4年度目標値	評価
3 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する								
燕市の郷土料理を知っている人の増加*【１つ以上知っている】	小中学生	94.3%(H22)	95.3%(H27)	—	—	—	100%	—
	保護者	98.1%(H22)	97.5%(H27)	—	—	—	100%	—
食事を作る手伝いをする子どもの増加*	小中学生	37.0%(H22)	26.2%(H27)	—	—	—	50%以上	—
農作物を育てたり収穫する体験のある子どもの増加*	小中学生	64.2%(H22)	63.7%(H27)	—	—	—	70%以上	—
燕市の農作物で特産品を知っている子どもの増加*【１つ以上知っている】	小中学生	80.7%(H22)	96.3%(H27)	—	—	—	100%	—
4 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する								
食の安全性に関心を持つ人の増加*	保護者	57.4%(H22)	64.4%(H27)	—	—	—	80%以上	—
食品の表示を確認して購入する人の増加*	保護者	99.3%(H22)	98.3%(H27)	—	—	—	100%	—
燕市産・新潟県産を意識して食品を購入する人の増加*	保護者	70.7%(H22)	72.8%(H27)	—	—	—	80%以上	—

燕市食育推進計画　活動指標各課実施状況

評価A:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている
B:食育の視点を取り入れて事業を実施している
C:食育の視点で事業を実施できなかった

No.	活動指標名	単位	H29年度	H30年度	R1年度	R1年度評価／担当課
1	つばめ食育だより掲示施設数	施設	64	72	92	A／健康づくり課
2	食生活改善推進委員活動回数	回	68	81	84	A／健康づくり課
3	郷土料理の実習伝達回数	回	8	8	8	A／健康づくり課
4	離乳食相談会参加割合	%	47.0	48.4	57.0	A／健康づくり課
5	３歳児むし歯有病者率	%	11.8	8.3	7.4	A／健康づくり課
6	スッキリ教室体重改善割合	%	60.9	50.0	54.0	A／健康づくり課
7	高齢者サロン食育指導回数	回	8	9	13	A／健康づくり課
8	幼保こども園給食喫食量	%	98.8	98.7	98.8	B／子育て支援課
9	キッズ健康講座講話満足度	%	100	100	100	A／子育て支援課
10	児童館等での食育活動回数	回	―	54	61	A／子育て支援課
11	食育教材使用学校食育啓発回数	回	―	20	36	A／学校教育課
12	アレルギー対応の推進	―	―	―	―	B／学校教育課
13	学校給食地産地消率	%	33.5	32.2	36.0	A／学校教育課
14	要支援者通所型健康教室参加者数	人	113	67	47	B／長寿福祉課
15	高齢者配食サービス利用者数	人	98	80	90	A／長寿福祉課
16	燕市農業まつり来場者数	人	7,500	9,300	10,200	A／農政課
17	表参道新潟館ネスパス来場者数	人	15,100	12,275	4,610	B／農政課
18	生ごみ処理機設置補助金額	千円	68	157	51	B／生活環境課
19	食品衛生協会補助金額	千円	163	163	163	C／生活環境課
20	食品ロス削減講話回数	回	―	―	5	A／生活環境課
21	子どもエコ料理教室参加者数	人	36	34	32	A／社会教育課
22	家庭教育推進事業参加者数	組	32	38	44	B／社会教育課
23	ワークライフバランス理解度	%	61.5	92	92	B／地域振興課
24	道の駅国上おにぎり提供食数	食	―	4,915	5,185	A／商工振興課
25	防災出前講座実施回数	回	23	35	21	B／防災課
26	アレルギー対応非常食備蓄数	食	―	720	720	B／防災課
27	女性防災リーダー養成講座受講者数	人	―	21	37	A／防災課

詳細は5ページ以降の実施状況・評価票をご覧ください。No.は実施状況・評価票の右上No.と同一です。

燕市の食育「食を通して心のつながりと元気なからだを育てます」

※写真(No.　)については、実施状況・評価票(右上 No.)の関連となっております。併せてご覧ください。

燕市の食育

基本目標1　健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する

つばめ食育だより（No.1）

農業まつりにて
野菜組み合わせ体験（No.2）

歯っぴーフェア　歯に良い食品クイズ（No.5）

つばめ元気かがやき
ポイント手帳

スッキリ教室（No.6）

早寝早起き朝ごはん講話（No.9）

女性防災リーダー養成講座
防災食調理（No.27）

男性の料理教室（No.6）

基本目標2　食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちをはぐくむ

地域のサロンにて共食（No.7）

園生活でマナーを学ぶ（No.8）

女性活躍推進フォーラム（No.23）

子育て支援センターにて食品ロス削減講座
（No.20）

広報つばめ特集記事「みんなで減らす食品ロス」

小学校で栽培したさつまいもで調理
（No.2）

家庭科担当教諭に食育媒体紹介
（No.2）

親子笹団子作り教室（No.3）

子どもの森にて　梅干し作り（No.10）

もりもり食堂　収穫体験（No.10）

レッツトライ♪エコクッキング（No.21）

基本目標3　食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する

地元の素材を使った三ツ星給食
トマみそカレー豚丼（No.11）

食物アレルギー研修会（No.12）

農業まつり 2019（No.16）

道の駅国上にて販売
燕市産米おにぎり（No.24）

若手農業者ステップアップ事業　市役所にて販売

市内事業所にて農産物直接販売

基本目標4　食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

【評価の基準及び評価の表記】

事業の評価は、指標に対する達成率及び事業の実施状況で評価ポイントの取組を行った項目数により、下記基準表により、成果（効果）を得られたか、3段階で表記するものとする。

【評価基準算出表】

評価ポイントの取組を行った項目数	目標値	
	達成	未達成
3	A	B
1～2	B	B
0	C	C

A　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている
B　:食育の視点を取り入れ事業を実施している
C　:食育の視点で事業を実施できなかった

No.1

健康づくり課　健康チーム

事業名	つばめ食育だよりでの食育の情報提供						
実施時期	毎月19日			実施対象	市民、職員		
内容	毎月19日が食育の日であることのPRと食育・健康情報を燕市の状況と合わせて発信する。幼保子ども園、支援センター、児童館、公民館、体育施設、スーパー等に掲示を依頼。燕市ホームページやつばめ元気かがやきポイント事業webメール配信を実施。また市内医療機関には、1年間分の食育たよりを冊子にまとめて設置。計画の目標達成に向け、食育推進の各種取り組みを発信するため、各課と連携協力して食育だよりを作成する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		掲示施設数	食育だよりを掲示する施設の数	施設	目標	73	平成30年度の実績72施設をもとに算出
					実績	92	
					達成率	126%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食育だよりのテーマについては、減塩、適正飲酒、食品ロス、防災に対する食の備え、熱中症予防など食と健康に関わる多面的な視点をもって企画した。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	今年度より新たに小中学校22校に掲示した。各種講座、健診、農業まつり・歯っぴーフェア等のイベントにて関連する食育だよりや最新号を配布した。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	燕市の現状や課題、取組状況も掲載し、市独自の食育情報となるよう作成し、普及啓発に努めた。				
成果及び今後の課題	新たに市内全小中学校に掲示し幅広い年代層へ向け発信できているが、今後も発信拡大に向け検討が必要である。また、配布先の掲示状況について確認を行っていくことや、ホームページの閲覧状況により経年評価を行う。より多くの市民に伝達できるよう、新たな発信方法や活用方法を検討する。						
担当課による評価結果	A　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.2

健康づくり課　健康チーム

事業名	食生活改善推進委員の活動支援と養成						
実施時期	通年			実施対象	燕市食生活改善推進委員		
内容	健康な食生活の習慣化と郷土料理等の食文化伝承に向け、地域住民に密着した健康づくり活動を推進する委員への活動支援と養成。食育指導媒体を作成し、園児や児童、地域に向けた活動が多く展開されている。燕市の健康課題解決、他課からの依頼事業に合わせ、関係組織や団体と連携協力を図り活動を実施する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		活動回数	食生活改善推進委員の活動回数	回	目標	81	平成30年度の実績81回をもとに算出
					実績	84	
					達成率	104%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	燕市の健康課題解決のためメタボや減塩等の生活習慣病予防、防災クッキング、郷土料理など地区の実情に合わせたテーマで活動内容を計画している。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	乳幼児期の親子や児童、高齢者まで各対象を考慮した内容の工夫をしていることと、参加のしやすさから子育て支援センター・園・学校・児童館・サロン等に出向いて活動することが増えている。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	市民の実状を把握できるよう食育アンケートの実施や、350gの野菜組み合わせ体験、塩分認知チェック、ジュースの砂糖量並び替えクイズなど世代に合わせた様々な体験を通して考えてもらったり楽しく学ぶ視点を取り入れている。

成果及び今後の課題	庁内関連各課と連携し、食品ロス削減のための取組や三ツ星給食メニューの地域への普及が新たな活動として増えた。食推自身が学び合い知識を深めたり、活動の場の広がりにつながっている。併せて食育アンケートによる市民の意識調査を行うことで今後のより効果的な活動運営をめざす。健康課題解決のため野菜摂取推進に向けた活動を継続して実施する。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.3

健康づくり課　健康チーム

事業名	料理講習会を通した食文化伝承と体験活動の推進						
実施時期	通年			実施対象	一般市民（特に子ども、若い世代）		
内容	地域や学校等において、笹団子やのっぺをはじめとする郷土料理の実習を食生活改善推進委員の指導により実施。調理実習を通して、手作りのよさや一緒に作る楽しさ、風土や先人の知恵なども伝えている。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		活動回数	郷土料理・伝承料理の体験活動回数	回	目標	8	平成30年度の実績8回をもとに算出
					実績	8	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	郷土料理を次世代へ伝えていくことをねらい、親子笹団子作り講習会は継続して実施している。笹団子作りの合間には食育かるた等の食育を取り入れている。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	親子笹団子作り講習会は休日開催としている。その他の活動はまちづくり協議会や児童館等からの依頼に合わせて実施している。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	参加者には食育を含む健康づくりに引き続き取り組んでもらえるよう、つばめ元気かがやきポイント手帳やこども手帳の配布を行った。

成果及び今後の課題	参加者には手作りの良さ、美味しさや作る楽しさを感じてもらえており食文化の継承を実践できている。児童館、公民館事業やまちづくり協議会と連携した取組みも継続できている。今後はこれに限らず若い世代に普及しやすい伝承料理や伝承していく意味を考えながら事業の展開、計画をしていく。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.4

健康づくり課　母子チーム

事業名	**母子保健事業**【乳幼児健診（4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児）、育児相談会（2か月児・0歳～就学まで）、離乳食相談会（3か月～12か月まで）、ハッピーベビークラブ（妊婦）】						
実施時期	通年			実施対象	妊婦、乳幼児とその保護者		
内容	正しい食の知識や生活習慣、食事を楽しむこと等についての集団指導や個別指導。 グループワークを行い、妊婦及び母親同士のコミュニケーションの推進。 乳幼児健診身体計測値より肥満度の算出、個別指導。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		参加人数	離乳食相談会参加人数（実人数）/出生数	%	目標	50%以上	実績%（参加実人数/出生数） 平成28年度　50.0%（291人/581人） 平成29年度　47.0%（233人/496人） 平成30年度　48.4%（242人/500人）
					実績	57.0	
					達成率	100	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	妊娠期・乳幼児期から望ましい食習慣の形成を獲得することを目標とした事業の実施と、参加者同士のコミュニケーション促進のための運営方法を考慮して企画している。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	離乳食相談会（対象：4～12か月児）では、各期で月齢を限定せず参加できる形態とし、乳幼児健診では対象年齢に合わせた集団・個別の指導を行っている。また、育児相談会や妊婦教室でも親子の食に関する相談ができるような形態をとっている。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	各年齢に合った発育発達のための適切な食の指導を行うとともに、楽しく共食する体験を通して食べる意欲や心の豊かさを育てるといった食の視点を取り入れている。

成果及び今後の課題	離乳食相談会では保護者が手軽に調理できるようなメニューを取り入れ、自宅に帰ってから実践できるように工夫をした。幼児健診では野菜嫌いや好き嫌いの悩みが多いことから、調理の工夫や親子の関わり方について資料を作成し配布を始めるなど、各事業でのサポートは充実している。健診以外の相談会にも参加してもらえるよう、各事業で相談会の周知を徹底し、参加率を上げていく。
担当課による評価結果	Ａ　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.5

健康づくり課　母子チーム

事業名	**歯科健診などでの生涯各期に応じた食育の推進**						
実施時期	通年			実施対象	市民		
内容	幼児歯科健診でのフッ化物歯面塗布、全園や小中学校でフッ化物洗口を実施。その他にむし歯予防教室等において歯や口の健康に関する取り組みを行っている。成人では、3歳児保護者歯科健診、特定健診でのだ液潜血反応検査、歯周疾患健診（40、50、60、70歳）、長寿歯科健診（76、80歳）、介護を要す人へは訪問歯科診療を行っている。 歯科医師会主催の歯っぴーフェアでは、歯科健診、フッ化物歯面塗布、川柳表彰、歯にいいおやつのレシピ紹介を行っている。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		3歳児むし歯有病者率	3歳児むし歯有病者/3歳児健診受診者	%	目標	10%未満	燕市歯科保健計画推進項目
					実績	7.4	
					達成率	100	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	歯や口腔の健康と食生活には密接な関係があることから、歯科保健における各世代の目標や各種事業に口腔ケアに合わせた食育の推進を取り入れている。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	妊婦教室や幼児健診・特定健診に合わせた事業実施、園・学校での取り組みの他、全世代を対象とした歯っぴーフェアの開催で歯科と食育の推進を行った。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	幼児健診では口腔ケアだけでなく食事内容や間食のとり方の指導を行った。歯っぴーフェアではよく噛む食材を全世代が楽しめる体験型クイズ形式で紹介を行うなど、各事業において食育の視点を取り入れた。

成果及び今後の課題	3歳児むし歯有病率は昨年度よりもさらに低い値となった。来年度は食育だより、保推・食推活動にも歯の健康をテーマに取り入れていきたい。
担当課による評価結果	Ａ　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.6

健康づくり課　成人チーム

事業名	**成人保健及び健康づくり事業における食育推進** （特定保健指導・糖尿病予防・骨粗鬆症予防・メタボ予防・職域健診指導・男性の料理教室・元気磨きたいプロジェクト活動）						
実施時期	通年			実施対象	一般市民		
内容	特定健診や職域健診の会場で、「減塩」「肥満予防」「糖尿病予防」の食事について、媒体やパンフレットを用いて普及啓発を実施している。肥満予防、糖尿病予防事業として健診結果活用講座、スッキリ教室、糖尿病検診結果説明会などの集団指導を、個別では糖尿病食事相談会を開催している。また女性の骨粗しょう症予防のために検診後の説明会と、骨粗しょう症予防相談会を定期的に燕・吉田・分水の3地区で開催している。健康づくり事業の男性の料理教室および元気磨きたいプロジェクト活動では、調理や栄養、衛生知識の基本だけでなく、調理作業を通しての交流や共食による楽しさも伝えている。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		スッキリ教室参加者の数値改善率	スッキリ教室運動編で体重が改善できた人の割合	%	目標	58	平成30年度のスッキリ教室（運動編基礎コース）において、体重に改善が見られた人の割合
					実績	54	
					達成率	93.1	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	生活習慣病予防のための食生活改善指導を、スッキリ教室食事編や調理実習編ではもちろん、運動編でも継続して振り返り、効果的に身につくように指導した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	スッキリ教室の対象を年齢と検診結果の数値で限定し、問題意識を持った方がより効果が出るよう設定した。食事・生活指導を通し、生活習慣や数値改善に向けて、個々に合った具体的な目標・行動計画が立てられる効果を狙った。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	個々のアンケートや、参加者への聞き取りから普段の生活の問題点を挙げ、生活に沿った具体的な食生活改善指導をしている。

成果及び今後の課題	スッキリ教室運動編初心者コースは、実際に体重に改善が見られた方は46%で、間食の内容や食事の食べ方が変わった、運動習慣がついたなどの「生活習慣が変わった」という感想が出ていた。次の実践コースで新たなメンバーと取り組んだことで、体重の改善率も54%と効果が出てきている。教室終了後も自主グループや保健事業につなげ、食事と運動習慣を継続していけるよう支援していく。
担当課による評価結果	A　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.7

健康づくり課　成人チーム

事業名	**介護予防関連事業における食育推進**（各地区健康相談会・頭の体操教室・高齢者サロン）						
実施時期	通年			実施対象	一般市民（高齢者）		
内容	各地区健康相談会や高齢者サロンでは、食に対する興味関心を高め、普段の食生活を振り返りつつ、しっかりと3食バランス良く食べることや、低栄養を予防するような健康教育を行う。頭の体操教室では参加者の年代と身体状況を考慮し、フレイル予防を中心とした健康教育を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		地区高齢者サロンの食育指導回数	令和元年度の地区高齢者サロン等で食育指導を行った回数	回	目標	9	H30年度の地区高齢者サロン等での食育指導回数に基づいて算出
					実績	13	
					達成率	144.4	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地区担当保健師や地区の世話役等と相談し、実情に応じて、実施時期や年代を踏まえて参加者のニーズに合った内容で企画する。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	参加者の年代や人数を考慮し、調理実習や試食、クイズ、レクリエーション・食育媒体などを組み合わせ、より興味・関心を持ってもらえるような内容を心がけた。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	時期に応じ、熱中症予防、減塩の啓発、防災食など参加者の興味に沿った内容で実施した。今年度は食品ロスの啓発についても行った。引き続き、高齢期の健康課題であるフレイル予防や骨粗しょう症予防に関しても啓発を強化していく。

成果及び今後の課題	今年度は食品ロス・学校給食に関する話題を取り入れながら、さらに参加者の関心を引く内容で食育を展開をしてきた。また、できる範囲での調理体験の機会を作ることで地域住民との交流と食生活の振り返りにもつながるものと感じた。
担当課による評価結果	A　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.8

子育て支援課　子育て支援係

事業名	幼稚園・保育園・こども園における給食の提供						
実施時期	通年			実施対象	園児		
内容	●国基準の給食の提供及び園生活で食事のマナーを学び、食べ物への興味や知識を知り、人と一緒に楽しく食べる。 ●食物アレルギー疾患をもつ園児に「食物アレルギー対応食」を提供する。 ●給食だより、給食展示、給食の試食、レシピの提供により、給食の内容を知ってもらう。 ●行事食や伝統食を取り入れて食文化を継承していく。 ●地産地消の推進（吉田地区で、じゃがいも・たまねぎ・かぼちゃ・だいこん・長ねぎ）						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		喫食量	出席者数の摂取量/在籍者数の発注量	%	目標	99	平成30年度実績98.7%に基づく
					実績	98.8	
					達成率	99.8%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	季節にあわせ、旬の食材を取り入れた献立作成を実施した。また行事食や昔ながらの郷土食（のっぺや菊のおひたしなど）を取り入れ、幼児期から慣れ親しんでもらう。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	給食の展示や保護者に試食やレシピの提供をしている。また、給食だよりや講座を通して食に関する情報を提供している。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	園の給食を通して、食事のマナーを学び、食べ物への興味や知識を高め、人と一緒に食べる喜びを実感できるよう取り組んでいる。

成果及び今後の課題	例年実施している喫食量調査を今年度は喫食量が増す年度半ばの10月に実施した。昨年度と、ほぼ変わりなく喫食量が維持されている。来年度も同じタイミングで調査を考えている。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.9

子育て支援課　子育て支援係

事業名	キッズ健康講座						
実施時期	年1回			実施対象	園児・保護者・職員		
内容	テーマは、「楽しく食べて元気な子どもに！早寝・早起き・朝ごはん」。2部構成で前半は保護者を対象に講話。後半は、親子で給食体験で、主食は親子でおにぎりを作り、副食は園の給食を親子で食べる。 事前に、園児の生活状況についてアンケートを実施し結果を当日の講演に盛り込み保護者から我が子の食生活をふり返ってもらう。また、自分で作る楽しさやおいしさを知ってもらったり、子供用の味付けや具材の大きさを知ってもらう。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		食育講話の満足度	講座終了後のアンケート結果	%	目標	100	平成30年度実績 大変参考になった、まあまあ参考になった合わせて100%
					実績	100	
					達成率	100	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	国が推進している「早寝・早起き・朝ごはん」を普及する。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	保護者が参加しやすいよう保育参観に合わせて講座を実施した。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	参加者に事前アンケートを実施し、その結果と「早寝・早起き・朝ごはん」の内容を比較しながら講話をすることにより、自身の生活を振り返れるようにした。

成果及び今後の課題	事後アンケートを見ると、自身の生活を見直すきっかけとなっていることがわかり、全員「参考になった」と回答しているので、今後も継続したい。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.10

子育て支援課　子育て支援係

事業名	児童館・児童クラブ・子育て支援センターでの食育活動						
実施時期	通年			実施対象	0～18歳までの子ども・保護者		
内容	食物に関する知識を高めるとともに、自分で作る楽しさ、おいしさを体験することで食への興味、関心をもつことができるよう食育活動を実施し、幼児期・児童期からの食べ物の大切さや食への感謝の気持ちを育むことができるよう支援する。児童館・児童クラブでは旬の食材の収穫体験を行ったり、収穫した食物を使用した調理実習や、行事に合わせた調理実習を実施している。また、子育て支援センター「すくすく」では、離乳食の調理や親子で作る季節の行事食調理、子育てサークルでお菓子作りなどを行っている。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		食育講座の実施回数	各施設での実施回数の合計	回	目標	54	平成30年度実績
					実績	61	
					達成率	113%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	季節の食材を使った調理実習や、施設で育てた野菜・果物の収穫を通して、食材の旬を知ることができた。また、日本古来の伝統食を、体験を通じて知ってもらう。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	児童館や子育て支援センターで実施することで、子どもと保護者が参加しやすい環境であった。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食についての知識が高いスタッフや食生活改善推進委員からの協力があり、講座や体験をとおして、食育が身についた。

成果及び今後の課題	今年度は例年の食育講座に加えて、食育ロスについての講座を支援センターで実施したこともあり、食育講座の回数は昨年度より増加した。それぞれの講座を毎年、継続し乳幼児期からの食への関わりを増やして行きたい。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.11

学校教育課 学校給食係

事業名	学校給食の提供及び児童生徒への食育						
実施時期	通年			実施対象	市内小中学校の児童生徒及びその保護者等		
内容	①「給食＆食育だより」の発行・HP掲載　、学校と市教委連携の「食育だより」の発行 ②学校の食育授業用教材の教材開発、教材の周知と貸出し ③三ツ星給食プロジェクトにおいて開発した「トマみそカレー豚丼」の家庭や地域への浸透						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		教育委員会所有の食育教材で、学校が主体的に食育に取り組んだ件数	食育教材の借用件数	件	目標	20件	過去の借用状況から設定
					実績	36件	
					達成率	180%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	年間指導計画に沿って、給食＆食育だより等を通じて、児童生徒及び保護者への啓発を行った。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	発達段階にあわせた食育教材の周知と貸出を行った。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	市教委連携食育だよりでは、各学校の食育活動をまとめ、市内小中学校や保護者への周知を行った。

成果及び今後の課題	各学校で積極的な食育の推進が図られた。また、三ツ星給食メニューも、年間4回の学校給食での提供に加え、食推や市議会議員等を対象とした試食会を実施し、定着してきたと考える。今後は、新たな取組を考える必要がある。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.12

学校教育課 学校給食係

事業名	食物アレルギー対応の推進						
実施時期	通年			実施対象	児童生徒、保護者、教職員、学校栄養教職員、給食従事者等		
内容	①食物アレルギー対応委員会の実施 ②学校教職員及び、保育園・児童クラブ関係者を対象とした食物アレルギー研修会の実施 ③食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者との情報交換会の実施 ④燕市内小中学校及び県立学校における適切な食物アレルギー対応給食の実施、並びに食物アレルギーをもたない児童生徒への啓発						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
					目標		
					実績		
					達成率		

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギーをもつ児童生徒が安全に給食時間を過ごせるよう、昨年度改訂した「燕市立小・中学校における食物アレルギー対応マニュアル」に沿って対応を行った。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	教職員及び保護者の参加しやすさを考慮し、アレルギー研修会は夏休み中の午後に、情報交換会は夜間に実施した。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	アレルギー研修会において医師から講演いただき、アレルギーをもつ児童生徒の安全につながる知識の普及を行った。 また、情報交換会では災害時の備えについての情報提供をした。

成果及び今後の課題	食物アレルギー対応マニュアルに沿った対応が浸透してきたことにより、医師の診断に基づく食物アレルギー対応が定着し、安全性が高まった。 アレルギーがあると保護者が申し出た児童生徒には必ず受診を勧め、対応につなげていることから、アレルギー対応が必要な児童生徒が増えた。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.13

学校教育課 学校給食係

事業名	学校給食における地産地消の推進						
実施時期	通年			実施対象	市内小中学校の児童生徒		
内容	①学校給食において、燕市産野菜の使用を推進 (1)納入する生産者を決めるほか、意見交換の場として、地元生産者と野菜納入会議を開催（月１回） (2)給食時間の放送を通じて市内の生産者名を伝え、児童生徒の食への感謝の念を醸成 ②JA越後中央営農センターから給食用精米を購入 ③西部学校給食センターにおいて、地元で製造した給食用物品を展示						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		学校給食地産地消率	燕市を含む県内産野菜の使用割合	%	目標	33.0%	平成30年度実績32.2% （東部給食センター30.6%） （西部給食センター33.7%）
					実績	36.0%	
					達成率	109%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	野菜納入会議において、生育状況や、納入可能な青果物について確認し、献立作成にいかした。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	学校給食の喫食者は小中学生であるが、給食＆食育だよりを通じて、保護者に向けても情報発信を行った。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	地元生産者から納品された青果物を使用した場合、各学校へ、生産者の名前と野菜名を事前に連絡し、給食時の放送等を通じて情報提供した。

成果及び今後の課題	生産者及び、野菜納入業者の協力により、多くの地場産野菜を使用することができ、食の安心安全にもつながった。高齢化等により、学校給食への納入をやめる生産者が出てきている。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.14

長寿福祉課 地域支援相談係

事業名	通所型サービスC「健康教室」						
実施時期	5～3月			実施対象	要支援1・2、総合事業対象者		
内容	●運動指導：理学療法士等による運動（下肢筋力UPのための筋トレなど） ●口腔ケア：口腔清掃指導、唾液腺マッサージ指導 ●栄養指導：「低栄養の予防・バランス食のすすめ」についての講話、食事姿勢の指導（誤嚥性肺炎の予防）、パンフレットを用いて低栄養・脱水予防の指導						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		健康教室参加者数	年間7回分の教室参加者数	人	目標	70	平成30年度の実績に基づき算出（平成30年度の参加者67人）
					実績	47	
					達成率	67.1%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	心身の機能維持・向上を目指し、基本チェックリスト該当者や長寿歯科健診受診者（口腔機能低下の人）などを対象に、口腔機能向上プログラムや栄養指導を実施している。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	今年度80歳になる介護認定のない人や総合事業対象者でない人に対して基本チェックリストを実施し、該当した人を対象とした。要介護に近い状態の人や一般介護予防レベルの人には状態に合ったサービスを紹介している。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食育だよりなどの媒体を用いて、「低栄養の予防・バランス食のすすめ」についての講話や食事姿勢（誤嚥性肺炎の予防）・脱水予防の指導を行っている。				
成果及び今後の課題	教室対象者の1/3は教室終了後も他の教室やサービスにつながっている。今年度はH29年度・H30年度の教室終了者で教室終了後要介護認定を受けていない人に対して、包括が家庭訪問を実施しその後の経過を追っている。この評価を基に今後の教室終了後の関わりについて検討していく。教室の対象者は減っているが、今の対象者が内容的に合っていると実施者からの声をもらっているため、来年度も対象は変えずに実施予定。						
担当課による評価結果	Ｂ　：食育の視点を取り入れ事業を実施している						

No.15

長寿福祉課 地域支援相談係

事業名	高齢者福祉サービス：配食サービス事業						
実施時期	通年 提供日数：週2日以内（1日1食）			実施対象	以下のすべてに該当する人●70歳以上の人 ●ひとり暮らし、または世帯全員が高齢者の人 ●世帯の全員が次のいずれかに該当 ①要介護および要支援の人 ②身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳のうちいずれかの交付を受けている人		
内容	ひとり暮らしの高齢者などのうち、安否確認が必要で自ら食事を用意することが困難な人に対して、1食300円で食事を提供する。※事業の対象に該当しない人についても、民間の配食サービス事業所の紹介をしている。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		配食サービス利用者数	配食サービスを利用する人の実人数	人	目標	90	過去の実績に基づき算出（平成29年度98人、平成30年度80人）
					実績	90	
					達成率	100%	
事業の実施状況	評価のポイント		実施内容を具体的に記入				
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	基本的な栄養バランスのとれた食事を提供してもらっている。				
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	サービスの利用日以外でも食の確保が必要な人には、事業とは別に宅配弁当を紹介している。また、対象に該当しない方に対しては民間の配食サービス事業所を紹介することで、利便性の向上を図っている。				
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	継続して利用されている人が多い。新規での申し込みも増えており、毎月増加傾向である。配食サービスを利用することで、安全な食の確保、低栄養予防につながっていると考える。				
成果及び今後の課題	栄養のバランスを考えた献立を考えるのが難しい人でも、安否確認を兼ねて安全・安心な食を確保することができ、安定した食習慣を身に着けることができるため、今後も対象者には広報やケアマネを通してPRしてく。						
担当課による評価結果	Ａ　：実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.16

農政課　生産振興係

事業名	燕市農業まつり						
実施時期	11月3日（日）			実施対象	燕市民他		
内容	地元産農産物、加工品、特産品等を消費者に即売する。また、農産物の品評会を行い地元産農産物の品質等を鑑賞してもらう。「食」に対するニーズが多様化するなか、農家との交流を通じて消費者から地産地消への理解を深めていただき、顔の見える安全で安心な燕市の農産物の消費拡大を図る。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		来場者数	来場者の車の台数	人	目標	9,300	昨年度実績
					実績	10,200	
					達成率	110%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	農業者と消費者の交流を通じて、市内の旬の農産物や農産加工品を多くの人に手に取ってもらい、地産地消を推進することを目的とした。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	屋台（焼き芋、こんにゃくなど）や飲食コーナーの設置によって子供から大人まで様々な年代の方が楽しめるよう考慮した。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	農福連携のブースを設け、食を通じて様々な立場の方が携わるイベントとした。また他市町村（旧三川村、旧中之島町等）にも出展していただき、特産品を対面販売することで地域間交流を図った。

成果及び今後の課題	今年度は天候に恵まれたことから、来場者数が目標を上回った。市内の農産物や農産加工品を多くの人に手に取ってもらうことで、地産地消を推進する良い機会となった。今後は農産物の即売だけでなく、燕市の特産品の知名度を上げられるような催しを企画したい。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.17

農政課　生産振興係

事業名	首都圏販路拡大推進事業 「うんめぇ～つばめ産　ときめき秋の陣　Part11」						
実施時期	10月13日（土）～10月14日（日） （当初計画10/12～10/14）			実施対象	首都圏在住者		
内容	燕市産農産物の消費拡大のため、首都圏において燕市産の農産物、加工品等を広くPRすると共に、主力となる特別栽培米コシヒカリ「えちごつばめの飛燕舞」、やさしい環境で育った「つば九郎米」の消費及び普及の拡大を図り、安全・安心な燕産農産物を提供する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		来場者数	施設（表参道新潟館ネスパス）が算出した数	人	目標	12,000	昨年度の実績
					実績	4,610	
					達成率	38%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	燕市の特産品および食文化について首都圏の方に知ってもらうことを目標の一つとした。また、消費者の生の声を聞くため、今年度も若手農業者の参加を企画した。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	若い世代や共働き世代などに、農業者が直接おすすめの調理方法を説明するなどした。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	農業者自身が生産した農産物を対面販売することで、燕市の安全・安心な食のPRに努めた。

成果及び今後の課題	台風の影響で2日間のみの開催となったため、目標達成率が著しく低くなってしまったが、悪天候の中でも燕市のお米や農産物を買うために来てくださった方もいたため、本事業の成果が出ているのではないかと感じた。燕市産農産物の具体的な取引拡大となると本イベントのみでは限界があるため、今後は商談会への出展や観光PRイベント等への相乗り参加等も計画し、燕市産農産物の国内販路拡大推進を図っていきたい。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.18

生活環境課 環境政策係

事業名	生ごみ処理器（機）設置補助金						
実施時期	通年			実施対象	市内に住所を有する者		
内容	市内の各世帯から排出される生ごみの減量化、償却の効率化及び堆肥としての資源化を図ることを目的として、生ごみ処理機の普及促進を図る。 そのため、市内に住所を有する者で、生ごみ処理機を販売する市内に本社または営業所を有する業者から、生ごみ処理機を購入し設置する者に対して補助を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		補助金額	交付実績	千円	目標	75	予算額の50% （H30年度執行率約55%）
					実績	51	
					達成率	68%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	－
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	周知を図るため、4月に広報で案内を出したほか、HPに内容を掲載し情報提供を行っている。申請者の手間を少なくするため、申請書や実績報告書をHPからダウンロードできるようにしている。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	－

成果及び今後の課題	今後も、市民へ導入するメリットなどを示しながら周知を図っていきたい。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.19

生活環境課 環境政策係

事業名	食品衛生協会補助金						
実施時期	年度末			実施対象	燕支部、吉田支部、分水支部		
内容	公衆衛生の推進を目的とする、飲食店を中心とした食品衛生協会に対し、活動資金として補助を行うことにより、食品関係の衛生環境の保持、公衆衛生の向上を図るもの。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		補助金額	交付実績	千円	目標	163	予算額
					実績	163	
					達成率	100%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	－
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	－
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	－

成果及び今後の課題	直接的な助言・指導を行う機会が少ないのが現状だが、今後、食品ロス削減の取組への協力等、補助金の有効活用について検討していきたい。
担当課による評価結果	Ｃ　:食育の視点で事業を実施できなかった

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.20

生活環境課 環境政策係

事業名	食品ロスの削減事業（食材使いきりレシピ・食品ロスについての講話）						
実施時期	通年			実施対象	未満児の保護者		
内容	必要量に応じた食品の販売・購入をした食品を無駄にしないための取り組み等、食品ロスの削減の重要性について理解を深めるための啓発事業。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		食材使いきりレシピ・食品ロスについての講話	回数	回	目標	5	新規事業につき、目標実施回数
					実績	5	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食材使い切りレシピの紹介にあたり、地域で活動されている食生活改善推進委員の方々に派遣依頼を行った。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	乳児～幼児（0～2歳児程度）がいる家庭で取り入れやすい簡単なレシピ等、実施時期の旬の食材の他、通年手に入る食材についてふれた。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食生活改善推進委員の方々とお母さん方がを通じてコミュニケーションとることができ、食の循環や環境の意識を促進させることができた。

成果及び今後の課題	参加者が積極的に食に関してコミュニケーションをとっていたところはよかった。 年内に4回実施したところ参加者は7～9組だったため、来年度以降は宣伝の仕方や参加者を増やすような工夫が必要である。
担当課による評価結果	A　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.21

社会教育課 公民館事業係

事業名	子ども料理教室（Let’s　try！エコクッキング）						
実施時期	8月、12月			実施対象	燕地区小学生		
内容	子どもを対象とした料理教室。調理から後片付けまで「エコ」をテーマとした座学と調理実習を行う。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		定員数	1回の教室で対応できる人数	人	目標	32	使用する調理室器具で対応できる人数にあわせ定員数を算出
					実績	32	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	開催時期にあわせ季節感のあるテーマ、調理ばかりでなくエコについての座学も取り入れた教室の企画・立案をおこなった。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	開催会場の地元である燕地区の全小学校にチラシを配布し、児童が参加しやすい夏休み及び日曜日の開催をおこない参加募集の啓発に努めた。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	使用する食材は地産地消の観点から出来る限り地元の食材を使い、調理段階においても野菜くずを出さないよう食事の大切さを学びながらおこなった。

成果及び今後の課題	平成29年度より会場を中央公民館に変更したところ、毎回定員（16名）をはるかに超える申し込みがあり好評を得ている。白根ガスとの共催事業は平成30年5月31日をもって契約が終了となったが、白根ガスの地域サービスの一環として引き続き事業を続けていく方向だ。申し込みは電話受付による先着順としていたが、12月の開催時は抽選により参加者を決定した。
担当課による評価結果	A　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.22

社会教育課 公民館事業係

事業名	家庭教育推進事業（食育活動から展開する家庭教育講座）						
実施時期	6/5（水）、8/7（水）、10/2（水）、12/11（水）、3/4（水）			実施対象	乳幼児及び小学生とその保護者		
内容	・親子一緒に料理することでコミュニケーションを図り、料理の楽しさや食への関心を高めてもらう。家庭で楽しみながら伝えられる「食」の大切さを学ぶ。 ・料理を通じ子どもたちに思いやりの心や感謝の気持ち、および自立心を育て、子どもの健やかな心と体の育成を図る。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		定員数 各回：親子12組	1回で対応できる親子の数	組	目標	60	講師の人数に応じて対応できる限度数。
					実績	44	
					達成率	73%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	開催時期にあわせ季節感のあるテーマで、親子一緒に楽しみながら料理することでコミュニケーションを図りながら「食」の大切さを学んでもらえるよう企画・立案を行った。
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	参加者の生活スタイルに支障がないよう考慮し、各回とも水曜日の10:30～13:00開催とし参加募集に努めた。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	旬の食材、地元の食材を用い親子で一緒に調理し、参加者全員で楽しく会食しながら家庭教育講座を行った。

成果及び今後の課題	毎回、調理実習と子育てのポイントを絞り家庭教育支援ガイドブックに沿った内容での座学も取り入れており、アンケートでの満足度は高い結果がでている。 チラシの配布、広報誌などで募集を行っているが、毎回参加数が定員に満たない現状である。アンケートでは参加のきっかけは他の人からの口コミが多いため、さらに多くの子育て支援施設への積極的なPRを行うなどして、参加者の増加を図り食育を通じ家庭教育の重要性を学ぶ機会の普及に努めるていきたい。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.23

地域振興課 地域振興係

事業名	市民と事業者へワーク・ライフ・バランスの情報提供と啓発						
実施時期	6月・8月・11月			実施対象	市民、市内在勤者、市内事業者		
内容	ワーク・ライフ・バランスを呼びかけ、家庭で食事をとる時間を十分確保してもらうことで、食を通じた家族のコミュニケーションの促進を図る。 ①広報つばめ6月1日号の男女共同参画コラムでワーク・ライフ・バランスについて掲載し、意識啓発を図る。 ②8月に市内事業者・市管理職員を対象に「イクボス研修会」を開催し、部下や自身のワーク・ライフ・バランスについて意識啓発を図る。 ③11月に事業者・住民を対象に「つばめ・やひこ女性活躍推進フォーラム2019」を開催。ワーク・ライフ・バランスの実現をテーマの一つとして講演会と事業所の取組事例発表を行う。仕事と家庭生活の両立の重要性を啓発する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		ワーク・ライフ・バランスについての理解度	アンケート調査の回答割合	%	目標	80	昨年度の実績を考慮し、フォーラム参加者の80%がワーク・ライフ・バランスについて理解を深めるものとして算出
					実績	92	
					達成率	115%	

事業の実施状況		評価のポイント	実施内容を具体的に記入
	1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	
	2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	「つばめ・やひこ女性活躍推進フォーラム2019」について、昨年度は休日の日中に開催したが、事業者に参加してもらいやすい日程を考慮し、今年度は平日の夜に開催した。
	3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	

成果及び今後の課題	「イクボス研修会」や「つばめ・やひこ女性活躍推進フォーラム」の参加者の増加を図り、ワーク・ライフ・バランスの重要性をより多くの人に向けて啓発することで、食を通じたコミュニケーションの促進に繋げていきたい。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.24

商工振興課観光企画係

事業名	道の駅「国上」で提供する「おにぎり」地産地消の推進						
実施時期	随時			実施対象	道の駅「国上」への来訪者		
内容	分水地区で収穫した米を100%使用した、道の駅手作りの「おにぎり」食べてもらうことで、地産地消を図り、燕市でとれたお米の美味しさを知ってもらう。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		提供数	「おにぎり」を提供した食数	食	目標	4,915	前年度実績
					実績	5,185	
					達成率	105%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	分水地区で収穫されたコシヒカリを使用したおにぎりを提供し、地産地消の推進に取り組んだ。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	気軽に立ち寄れる道の駅の食堂で実施しているため、老若男女問わず利用（提供）することが可能。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	メニューや店内に産地名を表示しPRを行った。

成果及び今後の課題	達成率が100%を超え、より多くの方々に地場モノの美味しさを伝えることができた。 今後の課題としては、コシヒカリが地元産であることを広くPRすることで引き続き地産地消の推進に努めていきたい。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

No.25

防災課 防災対策係

事業名	出前講座等による災害時の食事についての知識の普及						
実施時期	通年			実施対象	市民		
内容	地域や家庭・事業所等における防災について、実体験を含めた講座を実施。 その中で、災害時の食事の在り方について正しい知識の普及を図った。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		出前講座等実施件数	出前講座等を実施した件数	件	目標	35	平成30年度の実施件数 ※35件
					実績	21	
					達成率	60%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	地域や家庭・事業所等における防災をテーマに、実体験を含めた災害時の食事の紹介や食事支援で注意すべき事項の周知を企画。また、パッククッキングなども企画。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	まちづくり協議会・自治会・保健推進委員・女性防災リーダー養成講座・老人会等々、それぞれのコミュニティに応じて実施。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	衛生面を最重視し、生き残るための食事について周知した。

成果及び今後の課題	毎年度の出前講座等実施により、多くの市民に周知できている。 今年度は、台風19号による大河津分水路の増水等の発生により、ハザードマップに限った出前講座も多かった。 また、ロープワークのみの出前講座もあったため、実績のような数となっている。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

令和元年度　燕市食育推進計画　実施状況・評価票

No.26

防災課 防災対策係

事業名	備蓄品の整備						
実施時期	6月			実施対象			
内容	各小学校区に複数ある避難所のうち、1か所の避難所に備蓄品を整備。 平成30年度から、アレルギー対応非常食「梅がゆ」を備蓄。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		備蓄数	アレルギー対応非常食の備蓄数	食	目標	720	備蓄計画 平成30～34（令和4）年度で合計3,640食備蓄予定
					実績	720	
					達成率	100%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギーに対応した非常食を備蓄するよう考慮。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	食物アレルギーに対応した非常食を備蓄するよう考慮。

成果及び今後の課題	今後も備蓄計画に従い備蓄していく。
担当課による評価結果	Ｂ　:食育の視点を取り入れ事業を実施している

No.27

防災課 防災対策係

事業名	女性防災リーダー養成講座						
実施時期	12月18日（水）9時30分～11時 12月19日（木）19時～20時30分			実施対象	防災に関心のある女性		
内容	「家庭内備蓄と避難時の携行食・災害食調理」をテーマとした講座。 ※女性防災リーダー養成講座とは…女性のみを対象に、多くの防災知識を習得してもらうための、より具体的・実践的な講座。全6回のうちの1回を、上記のテーマで実施予定。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		R元年	目標値の根拠
		参加者数	上記テーマ時の受講者数	人	目標	25	昨年度受講者数 ※21人
					実績	37	
					達成率	148%	

事業の実施状況	評価のポイント	実施内容を具体的に記入
1	企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	「家庭内備蓄と避難時の携行食・災害食調理」をテーマに、実体験を含めた避難所での食事例の紹介や衛生管理、家庭での備蓄方法等についての講座を企画。また、アルファ米の試食や災害食調理も企画。
2	ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	受講者と調整し日程を決め実施。
3	実施に関して、食育の視点を取り入れたか	「家庭内備蓄と避難時の携行食・災害食調理」をテーマに、実体験を含めた避難所での食事例の紹介や衛生管理、家庭での備蓄方法等についての講座を実施。 また、アルファ米の試食や災害食調理も体験。

成果及び今後の課題	家庭内備蓄における優先順位やローリングストック・避難所での食事に関する重要事項について、また、アルファ米や水出しパスタなどの調理法を習得していただけた。
担当課による評価結果	Ａ　:実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている